



平成22年2月25日

各 位

会 社 名 株式会社大阪チタニウムテクノロジーズ
代表者名 代表取締役社長 西澤 庄藏
(コード番号：5726 東証第一部)
問合せ先 総務部長 岡田 宗久
(TEL. 06-6413-9911)

新中期経営計画(2010～2014年度)策定に関するお知らせ

当社は、本日の取締役会において、別紙の通り「新中期経営計画(2010～2014年度)」を決議いたしましたのでお知らせいたします。

以上

新中期経営計画 (2010～2014年度)

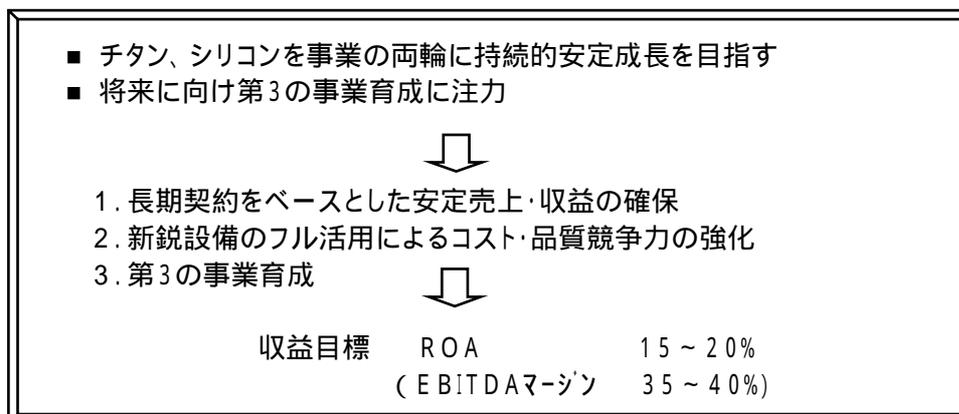
I 現中期経営計画(2007～2009年度)の成果と課題

- ・ 当社の現中期経営計画において、チタン事業では
 スポンジチタン年産 32,000 ト体制完成(08年 更なる増強は凍結中)
 インゴット年産 10,000 ト体制完成(09年 岸和田新溶解工場)
 また、半導体・高機能材料事業では多結晶シリコンで
 尼崎工場年産 1,400 ト体制完成(08年)
 岸和田新工場(年産 2,200 ト)建設に着手
 により、将来の成長に向けての生産能力増強体制を整えました。
- ・ しかしながら、08年度秋口以降の世界的な景気後退や新型航空機の納入遅延に加えて過剰在庫が顕在化し、チタンの需要は急減、事業環境が大きく変化しました。このため、新中期経営計画では持続的安定成長への再チャレンジ及び有利子負債の圧縮と財務基盤の強化により、市場変動に強い安定した事業基盤を構築することが課題と考えております。

今後の市場環境の見通し

- ・ チタン需要は、航空機向けでは在庫調整の進展とチタンを多用する新型航空機の就航が見込まれ、また、一般産業向けも原子力発電用途を中心に順次回復に向かうと予想されます。この結果、10年度後半～11年度には回復軌道に乗り、本来の上昇基調に戻ると予測しております。
- ・ 半導体・高機能材料事業については、10年度後半から世界の半導体需要の拡大と共に当社の生産する半導体用高品質多結晶シリコン(シリコン純度4N9)の需給は、今後次第に引き締まって行くことが想定されます。また、高機能材料としては、高純度チタンやTILOPは半導体用ターゲット材や液晶用ターゲット材として、SiO(一酸化ケイ素)は太陽電池バックシート用封止材や二次電池用負極材として成長が期待されます。

新中期経営計画事業方針



分野別事業展開

1. チタン事業

(1) 販売方針

- 長期契約量拡大による安定売上・収益の確保
- 安定した価格契約スキームの構築
- 需要上ブレ時の拡販機会の確実なキャッチ

(2) コスト・品質競争力強化

- スポンジチタン 尼崎新設備の活用による効率的生産体制構築
世界最大級13tバッチ炉のフル活用
ライン別品種造り分け整理・統合
- インゴット 岸和田新設備の活用による一貫生産体制構築
最新の自動化及び高効率設備活用による生産性、エネルギー原単位の向上
自動制御による成分コントロール精度向上、一貫生産による品質管理体制

2. 半導体・高機能材料事業

(1) 販売方針（多結晶シリコン）

- 半導体向け長期契約をベースにフル生産・販売継続
岸和田新工場は2011/4 出荷開始

(2) コスト・品質競争力強化（多結晶シリコン）

- 高品質（ルブン9）の安定確保と生産性向上の両立
尼崎工場
・操業改善による生産能力拡大 年産1,400t 1,550t (+10%)
岸和田工場
・安定立上げによる早期戦力化
・大規模高効率プラントによる生産性向上

(3) 高機能材料事業

- 開発資源の集中投入により 第3の事業として育成
ターゲット材向け高純度チタンの競争力強化
・半導体用ターゲット材高品質化対応
T I L O Pの拡販
・半導体用ターゲット材に加えて新用途向（液晶用ターゲット材）販売量拡大
S i Oの用途拡大
・包装用封止材に加えて高機能封止材向用途拡大と二次電池用負極材の開発



高機能材料事業 売上高倍増	20億円	40億円 (09 14年度)
---------------	------	----------------

共通課題と取組み

1. コスト合理化・生産性向上

- ベース操業技術の改善
- 既に完成もしくは実施中の増強新設備の効率的活用



		14年度目標 (対09年度)
・コスト合理化		40億円
・生産性向上	スポンジチタン	6% up
	チタンインゴット	12% up
	多結晶シリコン	10% up

2. 環境対応

- 環境保全を最重要課題の一つとしてとらえ、地域との調和から地球規模まで、環境汚染防止、資源保護の取組みを推進
 - ・省エネの取組み：エネルギー原単位低減 10～14年度（5年間）で 14%（対09年度）
 - ・省資源の取組み：3R活動（Reduce、Reuse、Recycle）の推進

3. 研究開発

- 新中期5年で50億円の研究開発費を予定
 - ・生産技術改善・開発と高機能材料を中心とした製品開発に開発費を選択・集中して投入する。

新製錬プロセスの開発は要素技術の開発まで完了した。実機化可否の判断を得るには、より多くの時間と人・物・金が必要となる。新中期経営計画では研究開発資源の選択と集中を実施して行くため、新製錬プロセスの開発は凍結することとした。

経営指標

1. 業績指標

	09年度 見通し	⇒	(億円) 14年度 計画
チタン 半導体・高機能材料	188 130		320 300
売上高	318		620
営業利益	13		145
経常利益	2		140
当期利益	1		80
総資産額	939		800
借入金	374		100
ROS (売上高経常利益率)	0.6%		23%
ROA (総資産経常利益率)	0.2%		17%
EBITDAマージン	38%		37%
為替レート的前提	93円/\$		90円/\$

2. キャッシュフロー（5年間）

	(億円)	
営業キャッシュフロー	800	⇒ 負債圧縮 株主還元の拡大
設備投資キャッシュフロー	470	
差引フリーキャッシュフロー	330	

以上